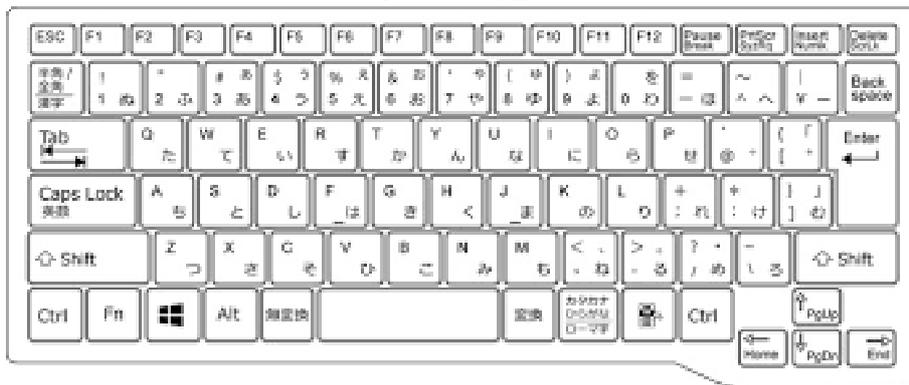


キーボード配列

JJ1SXA/池

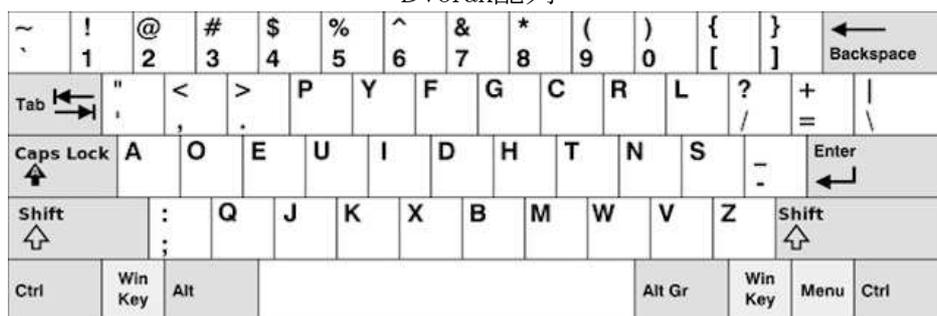
一般的に流通しているパソコンのキーボード配列は、「QWERTY(クワージー)配列」と呼ばれるタイプが主流ですが、QWERTY以外にも、「Dvorak(ドヴォラク)配列」、「QWERTZ(クウォーツ)配列」、「AZERTY(アザーティー)配列」、「Maltron配列」、「Colemak配列」等々があります。

QWERTY配列



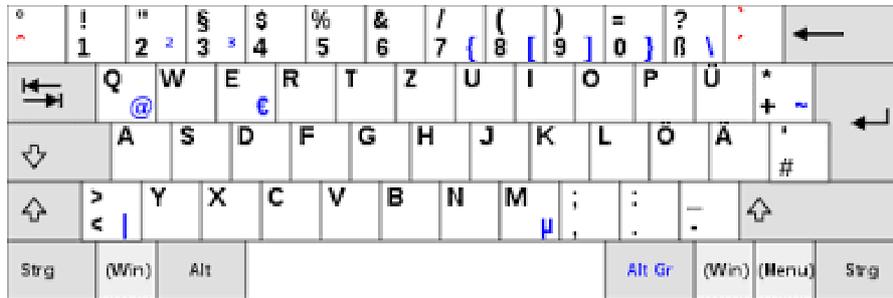
Dvorak配列は、英文入力に特化した設計、1932年にワシントン大学の教育心理学者であるオーガスト・ドヴォラクが考案したもので、特徴は、「打鍵の誤りを低減して、入力速度を向上させ、入力従事者の疲労を軽減する」ことを目的に、英文でアルファベットの出現頻度と相関性を分析し、英文入力に特化して設計された。他言語の使用は想定していない、上段と下段の使用頻度を低く、運指距離を短く設計し、母音は左手側中段、子音は母音に接続する出現頻度の降順で右手側、それぞれに配置し、右と左を交互に打鍵させて効率的で高速な入力を企図している。

Dvorak配列



QWERTZ配列は、中央ヨーロッパと東ヨーロッパで広く使われているコンピューターやタイプライター用のキー配列で、名前は、キーボードの左上の6文字がQ, W, E, R, T, Zの並び順であることに由来している。

QWERTZ配列



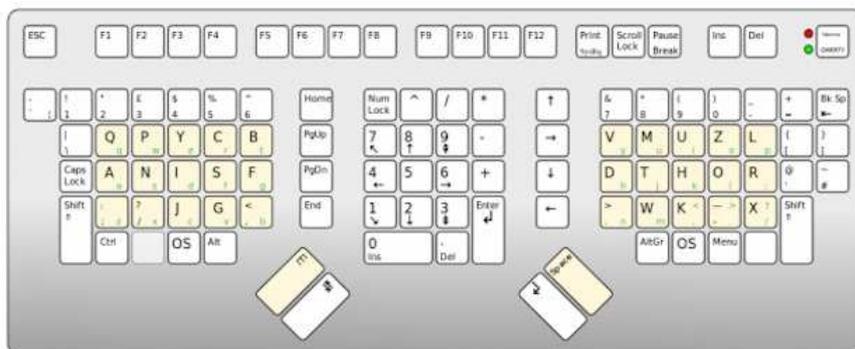
AZERTY配列は、主にフランスで使用されるキーボードのキー配列で、左上から順にAZERTYと並んでいるところから名付けられた。

AZERTY配列



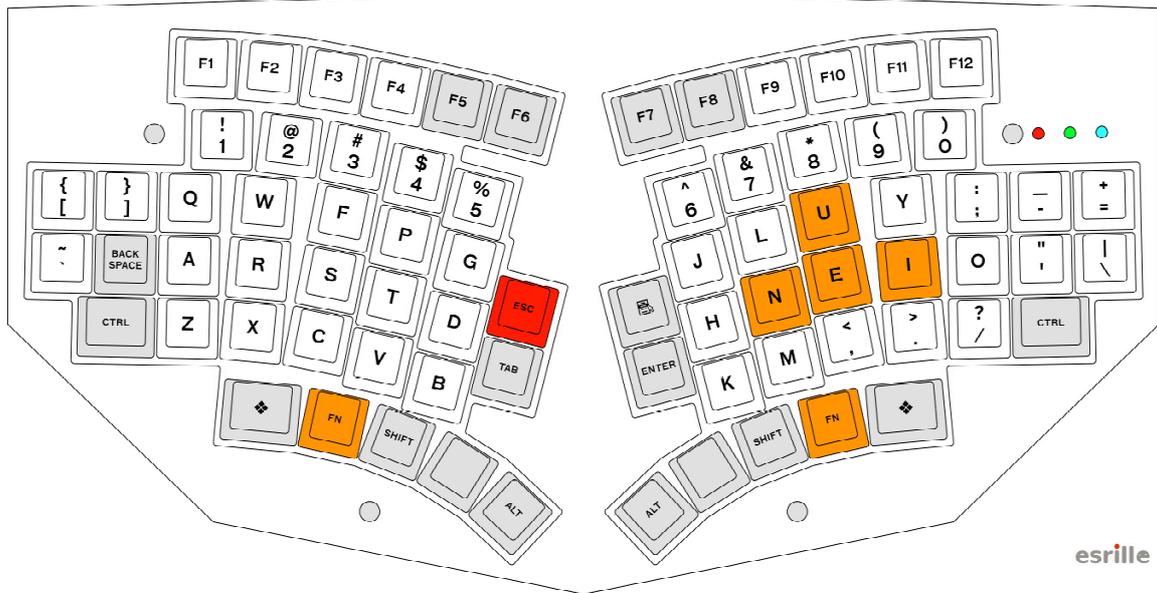
Maltron配列はもっとも先鋭的なキー配列とされています。文字キーを長方形にまとめるのではなく、テンキーを真ん中に置き、その両側に文字キーを配しています。この配列でも、利用頻度に基づいてキーが配置されているので、それほど手を動かす必要はありません。

Maltron配列



Colemak配列は、2006年に公開されたあたらしい英語のキーボード配列で、効率よく英文のタッチタイプができるように設計されています、Dvorak配列にくらべて、QWERTY配列からの移行がしやすいように設計されています。

Colemak配列



一般的なキーボードの配列は「QWERTY配列(と呼ばれていますが、なぜその名称かというと、アルファベットのキーがある段の行が、左から「QWERTY」と並んでいるため、これは、タイプライターが作られた時に採用された配列が元になって、現在にも引き継がれているといわれています。

それで、キーボード配列にまつわる諸説を見ていくと、1873年、タイプライターの開発の際にショールズ(Christopher Latham Sholes)によってこの配列の原型が提案され、試行錯誤を経て1882年に現在のキーボードのアルファベット部分と同じ配列が登場したようですが、ショールズがこの配列にした理由については諸説あります。

- * 早く打ちすぎるとタイプバーが絡まるので、わざと打ちにくい配列にしたという説
- * セールスマンが製品のプレゼンテーションを行う際に、「TYPE WRITER」と打ちやすかった(2行目にあるキーだけで打てる)説
- * 「ER」や「TR」などの二重子音を、利き手でない左手に集めてタイプバーが絡むのを防止しようとした説
- * 印刷業の植字工組合の制定した「活字箱の配列法」を基にしたという説
- * 市場を独占するために、タイプライティングする人達にトレーニングが必要な配列として、容易に他社製品へ切り替えできないようにした説

このように、色々の説がありますが、どれも確実な根拠は乏しく、本当のところは良く分かっていませんというのが結論です。